

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- 教科総合(国語・算数)の学校平均偏差値50以上の維持
- 全学年において、アンダーアチーバー児童の割合10%以下

3. 指標にむけての取組

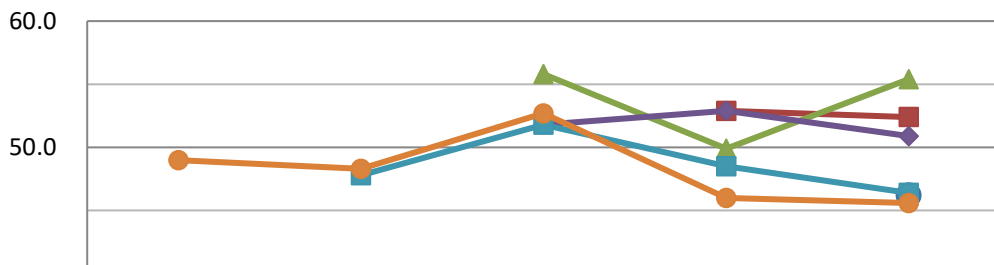
- 国語・算数において、「見通し」「自力解決」の段階で理由や根拠とともに自分の考えを書いて交流する学習活動の実施
- 毎時間の終末に振り返り活動を位置付け、練習問題に取り組ませる。(形成的評価の実施)

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本校(A)	50.7	50.2	51.8	50.1	49.6
嘉麻市(B)	50.7	51.5	51.4	51.1	50.9
(A) - (B)	0.0	-1.3	0.4	-1.0	-1.3
標準偏差値との差 (A) - (50)	0.7	0.2	1.8	0.1	-0.4

各学年の推移



	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施	2年度実施
● 2年度1年生					46.2
■ 2年度2年生				52.9	52.4
▲ 2年度3年生			55.8	49.9	55.4
◆ 2年度4年生			51.8	52.9	50.9
■ 2年度5年生		47.8	51.8	48.5	46.4
● 2年度6年生	49.0	48.3	52.7	46.0	45.6

5. 各学校における分析

○教科総合(国語・算数)における学校偏差値平均は49.6となり、偏差値平均50以上を維持することができなかった。

○偏差値平均50以上の学級は47.0%(8学級/17学級)であり、教科別では、国語47.0%(8学級/17学級)、算数41.1%(7学級/17学級)である。学級ごとで見ると、最高値(国語54.5、算数60.4)と最低値(国語42.7、算数43.0)の差が大きいことから、学年・学級間の差が大きく、取組が効果的に行われた学級とそうでない学級があったことが考えられる。

○2・3・4年生においては、算数の偏差値平均が50を超えることができた学級は、9学級中7学級であった。このことは、習熟度別少人数授業を計画的に行ったこと、毎時間振り返り活動を位置付けて練習問題に取り組みさせた形成的評価が効果的であったと考える。

○アンダーアチーバー児童は全校で38%であり、目標の10%以下を達成することができなかった。学年別では、2年生が10%、3年生が5%と、それぞれ10%以下を達成することができたが、1・4・5・6年生では10%以上となった。

○特に3年生においては、「見通し」「自力解決」の場面で自分の考えを書く活動を位置付けたことにより、児童が自分の考えを書くことに対する抵抗感が少なくなり、粘り強く問題に取り組もうとする態度を身に付けさせることができているという点で効果的であった。このことは、アンダーアチーバー児童が5%であったことからもうかがえる。

6. 各学校における今後の取組

【継続】

○算数科における習熟度別少人数分割授業の計画的な実施と複数体制による指導

○毎時間の終末における振り返り活動の位置付け(形成的評価の重視)

○家庭学習と関連付けた解き方の解説と書き直す時間の確保、教材集等の活用による発展問題への挑戦

【充実】

○毎時間、「書く活動」「話し合う活動」の位置付け(国語・算数)

・理由や根拠とともに自分の考えを「書く活動」の位置付け(「見通し」「自力解決」の段階を中心に)

・自分の考えとの共通点や相違点を見出したり、自分の考えに付加・修正したりするための「話し合う活動」の位置付け

○家庭学習の習慣化

・質・量の系統性をもたせた稲築西小学校家庭学習系統表の確実な実施と見直し

(課題提出率95%、取組時間「学年×10分+10分」達成児童80%)

【修正】

○学力の基盤づくり

・個別プリントを活用した家庭学習等個別指導の充実(全学年各教科、毎日)

(ひまわり先生個別プリントの活用、自己決定に基づく課題の取組への意識化、発展問題への挑戦、自学の充実)

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。